

折に触れ 四字熟語

NO. 113 『良知良能』 りょうち りょうのう

< 意味 > 人間が先天的にもっている知恵と才能のこと。後天的に獲得する学問や経験によるものではなく、人が生まれながらにもっている正しい心の働きと能力のこと。子が親を敬愛することの類たぐいをいう。

孟子の性善説（人間は本来、善良な生き物である、というもの）に基づく考え方。

< 出典 > 「孟子」<尽心>上

「・・・

孟子曰、人之所不学而能者、其良能也。所不慮而知者、其良知也。孩提之童、無不知愛其親者、及其長也、無不知敬其兄也。親親仁也。敬長義也。無他、達之天下也。

・・・」

読み下し： 孟子曰く、「人の学ばずしてよくするところのものは、それ良能なり。^{おもんぼか}慮らずして知るところのものは、それ良知なり。^{がいてい}孩提の童も、その親を愛するを知らざる者はなく、その長ずるに及びて、その兄を敬するを知らざるはなきなり。親を親しむは仁なり。長を敬するは義なり。他なし、これを天下に達するなり」。

通 釈： 『学ばなくても善を行なう力が「良能」である。考えなくても善を理解する力が「良知」である。がんぜない幼児でも、親を愛することを知っている。成長すれば、兄を敬うことを知るようになる。親を愛することが仁だ。目上を敬うことが義だ。仁義とはほかでもない。この心を社会全体にまで拡大したものである。』

語 釈： 「孩提^{がいてい}」は乳児。また、二、三歳の幼児。

一 言： 孟子シリーズ その2

この孟子の「性善説」に反対して、同じく中国の紀元前3世紀ごろの思想家荀子は「性悪説」を唱えました。どちらの説も簡単には説明できない哲学的で深遠なものですが、世の中で起る善と悪のニュースに接するにつけ考えさされる永遠のテーマではないでしょうか。

参考文献： 徳間書店・中国の思想「孟子」 岩波書店「四字熟語辞典」